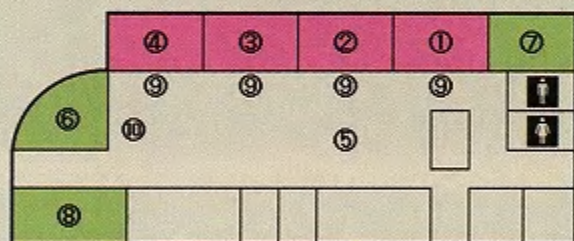


郷土資料館沿革

この建物は昭和 62 年、鶴岡小学校として新築された校舎でした。しかし、児童数の減少により平成 23 年春に閉校となり、施設の有効利用と、かねてより構想があった郷土資料館開設の実現を目指して手作りで準備を進め、平成 27 年 3 月に開館しました。

当館では町教育委員会に保管されていた資料、町内外の有志の方々が収集・寄贈された品を中心に約 600 点ほどを展示しており、今後も鉄道資料、過去に統合された町内各小学校の展示整備をすすめていきます。

主な展示案内



- | | |
|------------|---------------------------|
| ① 大むかしの木古内 | ⑥ 木古内と鉄道
(平成 27 年度整備) |
| ② マチの歴史と発展 | ⑦ 各小学校展示室
(平成 27 年度整備) |
| ③ 木古内の産業 | ⑧ 各小学校展示室
(平成 27 年度整備) |
| ④ 人々の生活と文化 | ⑨ 木古内町年表 |
| ⑤ 威臨丸と木古内町 | ⑩ 大型資料展示 |



利用案内

- 開館時間/午前 9:00～午後 4:00
- 休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、翌火曜日) 年末年始
- 入館料/無料
- 展示物にはお手を触れないようにお願いします。
- 当館内での飲食は許可を得て下さい。
- 館内は禁煙です。

〒049-0455
北海道上磯郡木古内町字鶴岡 74-1
TEL/FAX 01392-2-4366

木古内町 郷土資料館

Kikonai Town Museum

いかりん館

郷土の歴史と記憶が集う場



木古内町教育委員会

まちを拓いた先人たちの記録

木古内町は北海道の中でも歴史深い渡島半島南西部に位置し、室町時代には道南十二館の一つ中野館があった他、漁業林業を中心に古くから和人が定住していました。

さらに遠い昔、わたしたちの祖先である人々が生きていた痕跡が町内至るところから出土しています。

この郷土資料館は、それらの人々が残したモノや記録を展示し、見て、触れることで今とこれからを考えるきっかけになることを願いに込めています。

普段忘れられがちな郷土の過去、文化、ここで生きた人々のようすを見つめ直す。それはきっと未来を考えるきっかけになるでしょう。なぜなら、今は過去の積み重ねなのですから…



展示室①
大むかしの
木古内



展示室③
木古内の
産業



咸臨丸のものと推定されるイカリ

鶴岡地区は明治 18、19 年に山形県鶴岡市から旧庄内藩士族たちが移住した土地で、その開拓には幾多の困難が伴いました。

当館展示室では彼らが使った開墾農具をはじめ、漁師の道具、縄文時代の遺跡から出土した土器・石器、昔の人々の生活模様、そして木古内町の歴史と文化をパネル入りで解説しています。

今まで知らなかった木古内の一面やエピソードが見られるかもしれません。

咸臨丸は安政 4 (1857) 年、オランダで幕府海軍艦として建造されました。安政 7 (1860) 年には日米修好通商条約批准のため、勝海舟ら幕府の要人を乗せて太平洋横断往復に成功しました。

明治維新後、輸送船になった咸臨丸は、明治 4 (1871) 年に仙台藩白石領の片倉小十郎家臣団を乗せて北海道へと出航しました。しかし、木古内のサラキ岬沖で座礁し、14年の短い生涯を終えたのです。